

大豆の収量成立過程からみた害虫防除

(第 1 報) 開花・結実習性とダイズサヤタマバエの防除適期

西山芳邦

開花後まもない頃に産卵加害するダイズサヤタマバエの防除適期を明らかにするためにダイズの開花・結実習性を把握し,防除試験を行なった。'金成 1 号'を 1982 年 7 月 12 日畦間 80 cm×株間 20 cmで 2 粒ずつ機械播種し,開花期,開花期後 1,2,3 および 4 週目防除区を設けた。結果は次のとおりであった。

1. 大豆の開花は 0 次花と 1 次花よりなる開花群 I および 2 次花と 3 次花よりなる開花群 II の 2 峰性を示した(第 1 図)。
2. 開花群 I および II の着莢率は 72.8%および 48.4%と I が高く,着莢数に占める割合は I が 3 分の 2 を占めた(第 1 表)。
3. サヤタマバエの加害適期である枯死花期は開花後 3~5 日,稚莢期は 5~7 日に相当すると考えられた(第 2 図)。よって開花期後 1 週目防除では開花群 II には全く効果がなく,同 2 週目防除では,開花群 II に対してとくに有効であった(第 2 表)。
4. サヤタマバエの防除はダイズの開花結実習性,サヤタマバエの発消長および被害解析にもとづいて判断することが重要である。